

PRESS Release
報道関係各位

2019年（令和元年）9月19日
東京キャラバン広報事務局

開演前には倉敷美観地区内で練り歩きパフォーマンスを実施!

東京キャラバン in 岡山

日時：2019年12月8日（日）12:00～、14:00～、16:00～
会場：倉敷物語館（岡山県倉敷市）

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムであり、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の公認文化オリンピックアードのひとつである「東京キャラバン」では、2019年12月8日（日）に、岡山県倉敷市の倉敷物語館にて、「東京キャラバン in 岡山」を開催いたします（観覧無料）。

「東京キャラバン」は、野田秀樹（劇作家・演出家・役者）総監修のもと、言語や国境、表現ジャンルを超えた多種多様なアーティストたちへの参加を呼びかけ、これまでおおよそ交わることのなかった表現者同士の“文化混流”を実現させることで、新しい表現によるパフォーマンスを創出し続けている“旅する文化ムーブメント”です。

日本中を巻き込み、東京2020大会以降の未来へと続く文化活動のプラットフォームになることを目指し、芸術文化界で活躍する著名人や新しい才能と若きパワー溢れる表現者たちを迎え、全国各地で「文化サーカス」を繰り広げています。

岡山で活躍している表現者たちと東京のアーティストらによるジャンルを超えた斬新なパフォーマンスを披露！

「東京キャラバン in 岡山」のリーディングアーティストには、演劇・映画・テレビドラマなど幅広い分野の第一線で活躍し、脚本を全話担当した連続ドラマ、「あなたの番です」が世間の話題をさらったのも記憶に新しい、脚本家・演出家の福原充則（ふくはらみつりのり）が初登場。爽やかな初夏の風が吹く5月、岡山県を訪れた福原と東京のアーティストらは、伝統芸能を担う若手や地元で活躍しているユニークな表現者たちと出会い、交流を重ねています。

当日のパフォーマンスには、東京から参加する俳優や音楽家のほか、地元岡山から、備中神楽の次代を担う芳友会をはじめ、ダンサー、パフォーマー、サクソ奏者など、多彩なアーティストが登場。福原の指揮のもと、ジャンルを超えた“文化混流”に挑戦して創作した、これまでにない新しいパフォーマンスを披露します。

東京、リオデジャネイロ、東北、京都、熊本、豊田、高知、秋田、いわき、埼玉、富山を旅して、数々の“わくわく”と“どきどき”を生み出してきた“旅する文化ムーブメント”は、ここ岡山でさらに進化します。「東京キャラバン in 岡山」でしか観ることのできない貴重なパフォーマンスを、是非とも“生”で体験してください！



創作ワークショップの様子

開催概要

- 名称 : 東京キャラバン in 岡山
日時 : 2019年12月8日(日)12:00～、14:00～、16:00～
※開演前に倉敷美観地区内にて練り歩きパフォーマンスを実施します。
会場 : 倉敷物語館(岡山県倉敷市阿知2丁目23-18)
※雨天時は同会場にてプログラムを変更して実施
観覧 : 無料、事前予約不要
※どなたでも観覧いただけます。車いすでお越しの方はスタッフにお声がけください。
参加アーティスト : 福原充則、<以下五十音順>赤田晃一(サクソ奏者)、板橋駿谷(俳優)、
大西千夏(マルチアーティスト)、加賀美幹(ダンサー)、亀田梨紗(俳優)、
嶋村太一(俳優)、武内浩一(ダンサー)、寺井義貴(俳優)、永島敬三(俳優)、
中林舞(振付家・俳優)、西山宏幸(音楽家・俳優)、福原冠(俳優)、芳友会(備中神楽)、
山口佳子(パフォーマー)
参加クリエイター : 青木兼治(映像)、加賀雅俊(写真)、さんぴん(創作協力)ほか
東京キャラバン総監修: 野田秀樹(劇作家・演出家・役者)
主催 : 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、岡山県
後援 : 倉敷市
問い合わせ先 : info@tokyocaravan.jp



東京都



岡山県

インターネットライブ中継

「東京キャラバン in 岡山」をより多くの方にご覧いただけるよう、12月8日(日)14:00から公式WEBサイトにてライブ中継いたします。詳しくは、WEBサイトをご覧ください。<http://tokyocaravan.jp>

※出演者やプログラムは予告なく変更になる場合があります。

今回の東京キャラバンでは、「市井の人々を描いた小さな物語」と「小さなパレード」をやろうと目論んで、岡山のアーティストの方々とオーディション、様子見の稽古、と段階を踏んできました。東京からも役者を数名連れて行ったので、行く前は、「東京と岡山の共通点を見つけ、違いを楽しむ」みたいなことが頭にあったんですが、いざそれぞれのダンサー、ミュージシャン、ジャンルで形容できない創作者の面々と会うと、そこには地域性よりも、個人の物語が流れていたな、と。

我々は、どこにいても、その場の楽しみと哀しみがあって、それに寄り添って生きている。その小さな物語を、みなさまにお届け出来たらと思っています。

難しい話ではないです。僕は娯楽ありきの人間なので、今書いたようなことを前提しつつ、のんびり、なにも考えず、“無料”で、楽しめる作品にしますので、ぜひぜひお越し下さい。

福原充則 (脚本家・演出家)

リーディングアーティスト プロフィール

福原充則

1975年生まれ、神奈川県出身。2002年、劇団「ピチチ5(クインテット)」を旗揚げ、主宰と脚本・演出を務める。以降、舞台や映像の垣根を越え、幅広く活躍。ベッド&メイキングス公演『あたらしいエクスポージョン』で第62回岸田國士戯曲賞を受賞。また、同劇団にて上演の『墓場、女子高生』は、高校演劇界からの上演希望が後を絶たない。主な舞台作品に『サボテンとバントライン』(脚本・演出)『どどめ雪』(脚本)、『俺節』(脚本・演出)等。映画「愛を語れば変態ですか」では監督デビューを果たし、手掛けた映像作品は、「占い師 天尽」、「血まみれスケバンチェーンソー」(脚本)、「視覚探偵 日暮旅人」(脚本)、「ヒーローを作った男 石ノ森章太郎物語」(脚本)など多数。最新作は、舞台『忘れてもらえないの歌』(脚本・演出)。



「東京キャラバン」とは？

「東京キャラバン」は、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団が2020年に向けて、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムとして実施しています。劇作家・演出家・役者である野田秀樹の発案により、多種多様なアーティストが出会い、国境／言語／文化／表現ジャンルを超えて、“文化混流”することで、新しい表現が生まれるというコンセプトを掲げ、それぞれのジャンルを超えたパフォーマンスを各地で展開しています。「東京2020オリンピック・パラリンピック」の文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトとして実施した2015年の東京・駒沢に始まり、2016年にリオデジャネイロ、東北（仙台・相馬）、六本木、2017年は京都（二条城・亀岡）、八王子、熊本にて、松たか子（女優）、中納良恵／EGO-WRAPPIN'（ミュージシャン）、津村禮次郎（能楽師）、2018年は豊田、高知、秋田にて、黒木華（女優）、熊谷和徳（タップダンサー）、チャラン・ポ・ランタン（アーティスト）など芸術文化界で活躍する様々な著名人が参加し、それぞれの圧倒的なパフォーマンスで48,600人以上の観覧者を魅了しました。2017年度からは「東京2020公認文化オリンピック」として本格始動し、日本全国の自治体（道府県、政令指定都市、中核市）の中から立候補を募り、共感いただいた44の地域から開催候補地を選出し、2019年度はいわき市、埼玉県、富山県、岡山県、北海道での実施が決定しました。今後さらに全国各地で「文化サーカス」を繰り広げていくとともに、国や地域を超えた交流を継続的に図ることで、東京2020大会以降の文化的な基盤を創っていきます。

東京キャラバン公式ウェブサイト：<http://tokyocaravan.jp>



東京キャラバン～プロローグ～(2015年)
撮影：井上嘉和



東京キャラバン in RIO(2016年)



東京キャラバン in 東北(2016年)



東京キャラバン in 六本木(2016年)
撮影：篠山紀信



東京キャラバン in 京都(2017年)
撮影：井上嘉和



東京キャラバン in 秋田(2018年)
撮影：コンドウダイスケ

本リリースに関するメディアお問い合わせ先
東京キャラバン広報事務局 担当：岩川・銭谷
TEL: 03-6826-8708 Email: press@tokyocaravan.jp

参加アーティスト from 東京キャラバン

リーディングアーティスト: 福原充則(脚本家・演出家)



1975年生まれ。神奈川県出身。2002年、劇団「ピチチ5(クインテット)」を旗揚げ、主宰と脚本・演出を務める。以降、舞台や映像の垣根を越え、幅広く活躍。ベッド&メイキングス公演『あたらしいエクスポージョン』で第62回岸田國士戯曲賞を受賞。また、同劇団にて上演の『墓場、女子高生』は、高校演劇界からの上演希望が後を絶たない。主な舞台作品に『サボテンとバントライン』(脚本・演出)、『どどめ雪』(脚本)、『俺節』(脚本・演出)等。映画『愛を語れば変態ですか』では監督デビューを果たし、手掛けた映像作品は、「占い師 天尽」、「血まみれスケバンチェーンソー」(脚本)、「視覚探偵 日暮旅人」(脚本)、「ヒーローを作った男 石ノ森章太郎物語」(脚本)など多数。最新作は、舞台『忘れてもらえないの歌』(脚本・演出)。

板橋駿谷(俳優)



1984年生まれ。福島県出身。劇団「ロロ」に所属し、映画・テレビ・舞台・CMと幅広い分野で活躍。第26回読売演劇大賞スタッフ賞を舞台『オイディプスREXXX』作詞・ラップ指導で受賞。放送中の連続テレビ小説「なつぞら」にヒロインの同級生・門倉努役で出演。2019年公開映画「宮本から君へ」「歩けない僕らは」に出演。ほか、今後、映画・ドラマ・バラエティ番組など出演が控えている。「さんびん」主宰。

亀田梨紗(俳優)



1988年生まれ。東京都出身。福原充則作品には、『墓場、女子高生』に出演。近年の出演作としては、舞台『宅悦とお岩-四谷怪談のそのシーンのために-』『FAIRYTALE』(上海公演)、『背中を見せて』、映画「つやのよる ある愛に関わった、女たちの物語」「銀の匙-SilverSpoon-」「恋とさよならとハワイ」「ギャングース」など。CMへの出演、メルマガ「僕らのモテるための映画聖典」への執筆を含め活動している。

嶋村太一(俳優)



1973年生まれ。岡山県出身。フリー活動を経て、1999年コンユニット「親族代表」を結成。シリアス、コメディどちらの世界にも自然に溶け込み、存在感を発揮する。近年の出演作としては、映画「刀剣乱舞」(明智光秀 役)、NHK「いだてん」、WOWOW「神の手」、TX「日本ボロ宿紀行」、舞台版ドラえもん『のび太とアニマル惑星』など。

寺井義貴(俳優)



1976年生まれ。徳島県出身。劇団「ブルドッキングヘッドロック」に所属。誠実なサラリーマンからやさぐれた筋者まで、幅広い役柄をこなす。近年は映像作品への出演も増え、瞬発力のある演技で、見る者に強烈な印象を残している。近年の出演作としては、舞台『俺節』『亡骸バスツアー』『芸術家入門の件』『忘れてもらえないの歌』、TVドラマ「極道めし」「下町ロケット」「あなたの番です」、映画「血まみれスケバンチェーンソー RED」など。

永島敬三(俳優)



1987年生まれ。埼玉県出身。2008年劇団「柿喰う客」に初出演、2011年から劇団員として活動。近年は『俺を縛れ!』『美少年』などで劇団の中核を担う。近年の出演作としては、舞台『スタンレーの魔女』『ハムレット』『半神』『ふるあめりかに袖はぬらさじ』『サクラパパオー』、TV「仮面ライダー ジオウ」「刑事ゆがみ」、「東進ハイスクール」CMナレーションなど。また、「夏葉亭雛菊」として落語にも挑戦するなど、ジャンルを問わず活発な活動を続ける。「さんびん」主宰。

中林舞(振付家・俳優)



1982年生まれ。東京都出身。幼少期よりクラシックバレエを習う。多摩美術大学にて劇団「小指値(現 FALFAI)」を旗揚げ。退団後は、身体能力と共に台詞劇をこなせる実力を兼ね備えた存在として、小劇場からエンタテインメントまで幅広く出演。TVCMでも活躍中である。また、「でんぱ組.inc」「バンドじゃないもん！MAXX NAKAYOSHI」などのアイドルや、乃木坂46主演『嫌われ松子の一生』などの演劇の振付師としても活動。

西山宏幸(音楽家・俳優)



1977年生まれ。山口県出身。16歳でベースを始める。24歳で劇団「ブルドッキングヘッドロック」に入団し、その後は、俳優・劇伴の作曲家として活動する。25歳の時、都内バンド大会で優勝し、副賞としてハリウッドでのライブを経験するも、翌年にバンドは解散。2015年、エンタテインメントビッグバンド「ネイキッドハイ」を立ち上げ、バンマス・ベース・ボーカルを担当。ライブでは、ロック・ファンク・ポップス・和風アレンジなど、様々なジャンルの楽曲を演奏する。

福原冠(俳優)



1985年生まれ。神奈川県出身。明治大学文学部演劇学専攻在学中に演劇活動を開始。その後、「範宙遊泳」「ロロ」「木ノ下歌舞伎」「悪い芝居」「FUKAIPRODUCE羽衣」「Baobab」「ストミック」など、次世代の演劇界を担う若きカンパニーにいずれも主要な役どころで出演。現在は「範宙遊泳」劇団員、「さんぴん」主宰。2019年秋は『ハムレット』『グリークス』と2本の舞台に出演。TV番組でも活躍中である。

参加アーティスト・クリエイター from 岡山

赤田晃一(サクソフ奏者)



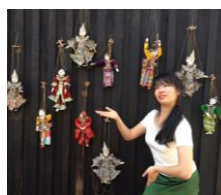
1970年岡山県赤磐市出身/在住。各種演奏活動やアートイベントへの参加、更には演劇の音楽担当や様々な規模の映画へのサブキャスト/エキストラ出演等々、表現全般への興味とネットワークを拡げている。

大西千夏(マルチアーティスト)



ストレートプレイ、ミュージカル、仮面劇、英語劇、人形劇、映像作品、朗読、音楽ライブ、テレビCMなど、活動の幅は広い。プレーヤーとして作品に参加する場合もあれば、作家、楽曲提供、衣装デザイン、演出など、創作側に立つこともある。マルチな面を生かし、作品に関わるすべてを自作することによるソロ公演にも力を注いでいる。演出家として芸術祭に参加し作品を提供することも多い。シナリオ、音楽、演出を手がけた「アマンジャクの旅」でバリ公演を果たす。

加賀美幹(ダンサー)



幼少期より東南アジア諸国と日本を行き来する国境越えの転勤族。バイリンガル教育を受けながら現地の文化や言葉も学ぶ。タイやインドでは現地の伝統舞踊を習い、シンガポールではスポーツとクラシック・バレエを習う。現在は帰国し、岡山大学ダンス部で活動。ダンス部として毎年自主公演を開催する他、さまざまな舞台にも出演し、身体表現を通して多彩なダンスに取り組む。

武内 浩一(ダンサー)



1981年 岡山県倉敷市生まれ。2005年より須原由光(「ズンチャチャ」主宰)に感銘を受け、踊り始める。ダンス、演劇、アフリカンパーカッション、ミュージカル、オペラ、朗読、映画、CM等様々な表現活動経歴を持つ。文化庁、NPO法人DANCE BOX主催 国内ダンス留学@神戸(ダンサーコース)3期生。三浦宏之主催、M・L・I、M・O・Wiに3年半所属。

芳友会(備中神楽)



国指定重要無形民俗文化財 備中神楽。芳友会は、若手神楽師が「所属する社中の枠を超えて、技術向上のため切磋琢磨する」目的で2006年に結成された。2015年から2代目メンバーとなり、現在は21歳から27歳の7人で活動している。それぞれが所属社中の伝統を大切にしながら、時代に見合った神楽を模索中。地元の祭りやイベントは勿論、インバウンド関連行事や瀬戸内国際芸術祭などで備中神楽の魅力を発信している。

山口佳子(パフォーマー)



撮影：伊東和則

岡山で生まれ育つ。幼少期、踊ることは人生だ！と悟る。身一つで踊れる空間をみつけては出現する。2009年よりフリー。「踊りに行くぜ！！」(JCDN主催・京都)、「福岡ダンスフリンジフェスティバルVol. 4, Vol. 7」(CO. D. EX主催・福岡)、「出石芸術百貨街」(岡山市出石町)、「横浜ダンスコレクションEX2012」コンペティションファイナル、「みんなのダンスフェスティバル」(db主催・神戸)「やかげ芸術街道」等参加。2011年よりR40(あーるじゅう)の代表としてコンテンポラリーダンス企画「R40 Dance Project」を展開中。